

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション(GSP・上級)			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

Intercultural communication is an academic field of study which started in the U.S in 1960s. The purpose of this course is to understand factors of miscommunication in intercultural contexts and nurture a positive attitude towards cultural diversity.  
異文化コミュニケーションは1960年代のアメリカ合衆国で始まった学問的かつ実践的分野である。本コースの目的はクラスでの英語学習活動を通して、異文化の状況で起こるミスコミュニケーションの原因を理解し、文化的多様性に対する肯定的態度を醸成することである。

### 到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。  
(1) Understanding theories and concepts of intercultural communication. (異文化コミュニケーションの理論と概念を理解できる。)  
(2) Being aware of your "self" and your own culture. (自己と自文化に対する気づきを深めることができる。)  
(3) Being aware of various aspects of different cultures and showing respect to cultural diversity. (異文化におけるさまざまな側面に対する気づきを深め、文化的多様性に敬意を表すことができる。)  
(4) Developing your English communication skills through various class activities. (様々な授業内活動を通じて英語コミュニケーション力を身につけることができる。)  
\* In this course English is used as a means of communication to fulfill the goals stated above. (本コースでは、英語そのものを学習することが目的ではなく、英語で異文化コミュニケーションを学習することを目的とします。)

### 提出課題

授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組み等、さまざまな課題を提出する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストの解答の解説をし、受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導する。

### 評価の基準

- (1)Homework (35 %) (課題)
- (2)Quiz (15 %) (小テスト)
- (3)Presentation (20 %) (発表)
- (3)Final Examination (30%) (定期試験)

コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取りこまなかった項目がある場合は不合格となる。また、授業中の態度が悪く悪い、教科書を持って来ないなどの行為が見られた場合は、大層な減点となるので留意すること。教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。

\*In order to pass this course, you must fulfill all the above-mentioned requirements.  
\*Details of class activities will be announced in the first class.  
(単位取得には上記のすべての項目に取り組み必要がある。授業活動の詳細は、第1回目の授業で説明する。)

### 履修にあたっての注意・助言他

- (1)前提のように、コースの評価は上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取りこまなかった項目がある場合は不合格となる。
- (2)特別に認められる理由以外の15分以上の遅刻は欠席となる。コースの3分の1にあたる5回以上の授業を欠席すると定期試験の受験資格を失い単位を取得できなくなる。3回の遅刻で欠席1回となる。
- (3)教科書は当然、購入しているという前提で授業を実施する。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。
- (4)課題はWord形式で提出すること。スマホからの写真やテキストでの提出物は受理しない。
- (5)留意、授業開始直後の10分間を使ってクイズを実施するので遅刻しないこと。欠席した場合の追試は実施しない。
- (6)教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。
- (7)その他、授業に関する詳細については第1回目の講義資料で説明するので、必ず出席すること。

\*提出課題を含むすべての連絡事項はRyuka Portalのキャンパスクロスを通じて行うので、必ず確認すること。

教科書	.Speaking of Intercultural Communication.	Peter Vincent	Nan'un-Do	2,200	9784523178408
-----	---	---------------	-----------	-------	---------------

### 参考図書


### その他

テキストの内容に準拠した担当者が作成のワークシート等、適宜、授業中やRyuka Portalのキャンパスクロスを通じてを配布する。

### 授業計画

#### 回 授業計画

1. Course guidance and pair work
2. Unit 1 Communication : Reading & Exercises
3. Unit 1 Communication: ICC activity & Discussion
4. Unit 2 Culture : Reading & Exercises
5. Unit 2 Culture : ICC activity & Discussion
6. Unit 3 Nonverbal Communication: Reading & Exercises
7. Unit 3 Nonverbal Communication : ICC activity & Discussion
8. Unit 5 Culture and Values :Reading & Exercises
9. Unit 5 Culture and Values : ICC activity & Discussion
10. Unit 6 Culture and Perception : Reading & Exercises
11. Unit 6 Culture and Perception : ICC activity & Discussion
12. Unit 7 Diversity: Reading & Exercises
13. Unit 7 Diversity: ICC activity & Discussion
14. Unit 8 Stereotypes: Reading & Exercises
15. Unit 8 Stereotypes : ICC activity & Discussion

\* 授業の進捗状況により内容を調整することがある。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A : PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/> I : 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> U : ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E : グループワーク
<input type="radio"/> O : プレゼンテーション	<input type="radio"/> C : 実習、フィールドワーク
* : その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

その日の授業内容に応じて、上記を適宜採用する。

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：テキストの各ユニットのエッセイの単語の意味の検索および読解、各ユニットに関する担当者が作成のワークシートに取り組み、次回のクイズの準備 (2時間)

復習：その日に学習した内容の復習 (ワークシートの添削箇所を確認、テキストのエッセイのリスニング、リーディングセクションの音読を含む) (2時間)

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは英語学習を通して、円滑な異文化間コミュニケーションに必要な知識とスキルを修得する。これは「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学の全学共通目標のディプロマがゴールに含うものである。また、該科履修を通して海外の社会や文化について学び、基本的な語彙と内容理解・情報収集に参画することにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は学部生に求められる業界界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業に関する質問は随時受付、授業中あるいはキャンパスクロスを通じて回答する。受講生からの提出物を添削し、フィードバックを行う。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考

教科書を購入しなければ課題を提出できないので、履修登録後、すみやかに購入手続きをすること。前提のように、教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。授業に関する連絡事項はすべてキャンパスクロスを通じて行う。